

令和元年5月28日現在

機関番号：34304

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2018

課題番号：16K13188

研究課題名（和文）学習マンガの表現構造及びジャンル確立過程に関する実証研究 - 1970年代以降を中心に

研究課題名（英文）Research about the structure of Gakushu manga's expressions and the process of its establishment:focusing on cases after the 1970s.

研究代表者

山中 千恵 (YAMANAKA, Chie)

京都産業大学・現代社会学部・教授

研究者番号：90397779

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、歴史や科学知識を伝達する目的で描かれ教育現場で活用されるマンガ、いわゆる「学習マンガ」の制作現場を調査し、表現構造及びメディア史、制作過程の分析をすることを通じて、マンガの社会的位置づけを明らかにすることにあった。本研究では、学校図書館における学習マンガ所蔵調査、日本、韓国での学習マンガ編集部への出版社インタビュー調査、文献調査などを通じて、学習マンガシリーズがいかに企画され、その表現が決定されてきたのか、マンガの叙述方式の限界がいかに意識され、学習と娯楽が境界づけられているのかを明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで研究対象として看過されてきた学習マンガを研究の遡上に乗せたことに大きな学術的意義がある。既存出版物の整理とリスト化をすすめ、制作現場のインタビュー調査や学校図書館調査など実証的データを積み上げながら研究プラットフォームを構築することができた。このことにより、マンガの教育的活用可能性と限界への議論を可能にした点で、社会的意義を持つと考える。また、成果の一部を同じく学習マンガが盛んに制作されている韓国で発表し、書籍を出版することができた。今後の国際的研究につながる課題を練り上げることができたと思う。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research was to clarify the social positioning of manga by exploring the site of manga that is often called "Gakushu (educational) manga", which is created to impart knowledge of history or science and used for education. Accordingly, the structure of its expressions, the production process, and media history were all analyzed. By reviewing Gakushu manga collections of school libraries, interviewing editors of Gakushu manga publishers in Japan and Korea, and conducting a bibliographic survey, we were able to clarify how Gakushu manga series were made into plans, how certain expressions were chosen, how the limit of narrative methods were recognized, and how the boundary between education and entertainment was set.

研究分野：社会学

キーワード：学習マンガ ポピュラー文化 教育 マンガ史 メディア研究

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、マンガによる歴史表象が、いかにナショナリズムと接続しているのかを明らかにしようとする研究の過程で、マンガ表現が「物語」への指向性をもちつつ、「事実」を描こうとするときに生じる葛藤と、マンガというメディアの社会的評価や批判にかかわる言説の布置を理解することの重要性に気付いた。こうした問いを深化させるには、事実/物語・教育/娯楽の対立を無効化あるいは利用していく表現としてのマンガ、「事実」を扱うマンガを分析することが必須であると考えた。

日本マンガは物語の形式としてだけでなく、事実の伝達ツールとしても発展してきたが、主に後者を担ってきたのが「学習マンガ」ジャンルである。学習マンガの歴史をひもとくことで、事実を記述しようとするときの虚構性との葛藤、教育的との距離や社会的承認を得ようとする制作現場の様々な試みと娯楽性の桎梏というダイナミズムをとらえ、ポピュラー文化と歴史意識をめぐる議論、マンガ文化の社会認識をめぐる問いにあらたな視角を与えるために本研究に着手した。

2. 研究の目的

本研究は、歴史や科学知識を伝達する目的で描かれ、教科内容が参照され制作されているがゆえに、教育現場でも活用されるマンガ、いわゆる「学習マンガ」に注目するものである。研究では、「学習マンガ」の制作現場を調査し制作過程を明らかにするとともに、表現構造が形成されてきた経緯をメディア史的に分析することを通じて、このジャンルのマンガの社会的位置づけや、このジャンル特有のマンガ表現が導く歴史認識、社会意識の構造を明らかにすることを目的とした。

学習マンガは重要な情報伝達ツールとして日本で独特に発展し、少年・少女マンガとは異なる経路を通じ海外にも浸透している。にもかかわらず、学習マンガの制作過程やジャンルの歴史的・社会的変遷は十分に明らかにされてこなかった。戦後、巨大な市場を形成しながらも研究的に看過されてきた学習マンガを扱うことで、マンガ表現を通じて知識や情報を得るという経験が、戦後日本の社会空間にいかなる視野を獲得させてきたのかを問う。

3. 研究の方法

本研究では、

- (1) 学習マンガの現状と歴史の把握
- (2) 戦後発展期のジャンル確立過程の特質把握
- (3) 海外の類似表現との国際比較

を行い、学習マンガの全体像を描くことを目指した。

学習マンガは、戦中（創成期）に始まり、教育環境の変化した1970年代（発展期）、大人向けに広がった1980年代（展開期）を経て今にいたるが、本研究は主に戦後日本社会に焦点を合わせ、発展期から展開期までの期間を主に扱うこととした。

具体的には、発展期以降、学校教育現場での利用や自主学習の促進を想定して作られてきた学習マンガシリーズを中心に、それら書誌データと関連資料を整理し、リストを作成する(1)。学習マンガを発行する出版社の編集者、作家、監修者等への聞き取り調査を実施する。特に、戦後巨大産業に発展した時期の関係スタッフに調査を行うこととする。同時に当時の教育課程に関連する資料等、周辺資料を検討し、ジャンルの社会的位置づけとともにその特性を明らかにする(2)。日本マンガのグローバル化の結果生まれた韓国及び仏語圏（可能であればその他の地域）における学習マンガとの国際比較を行い、表現の類型を抽出する(3)。(1)～(3)を達成するために、以上の方法をとることとした。

4. 研究成果

(1) 学習マンガの現状と歴史の把握

学校図書館において学習マンガがどのように扱われているのかを明らかにするために福井市内の小中学校の学校図書館（図書室）における学習マンガ所蔵調査を実施、結果をまとめた。学校図書館において選書されやすいシリーズがあることが明らかになった。その中で、「歴史」や「科学」という学習内容を物語のベースとして構想され、描かれる「学習マンガ」とは異なり、マンガのキャラクターを用い、そのキャラクターが活躍する物語を適宜引用しつつ学習内容が理解できるようにと描かれる「学習マンガ」シリーズの積極的な取り入れも見られた。学校現場では「学習マンガ」の「マンガらしさ」をキャラクターの魅力として理解していることが推測できた。

さらに、上記の調査の結果を、教育現場において参照される関連資料から跡付け、学校現場で重要と考えられている伝記学習マンガシリーズ及び歴史学習マンガシリーズ（日本史・世界史）を中心に、書誌リストを作成した。また伝記マンガシリーズに焦点をあて、その表現上の

特質を明らかにする研究にも着手した。

学習マンガの歴史を把握するために、各出版社の社史等を資料として学習マンガレベルの大きな発展年表を作成し、(2)の調査につなげた。

(2) 戦後発展期のジャンル確立過程の特質の把握

学習マンガシリーズを発行する出版社(学研ホールディングス、集英社、朝日新聞出版社)の編集部・編集者へのインタビュー調査を実施した。戦後の発展期から展開期、現在において、学習マンガの編集部がどのように組織され、企画され、編集作業が進められたのか。制作の現場で重視された表現の在り方や、市場動向の把握の方法、教育制度との関連をインタビュー結果から明らかにすることができた。販売期間が他のマンガ雑誌や単行本として発行される作品と比べても長期間に及ぶことが想定される「学習マンガ」シリーズの制作には、マンガ以外の出版ノウハウが投入されていることが明らかになった。また、出版社の他部署で描かれているマンガ作品の人気キャラクターを利用した学習マンガが、どのように企画され社内でも分擔されているのか、キャラクターの「らしさ」と教育・学習という目的がいかに調整されているのかについても、一定の知見を得ることができた。

この調査から得られた知見は(3)における国際比較調査のための資料としてまとめた。

また、戦後発展期にジャンルが形成されていく背景として、制作現場における戦前と戦後の連続性はほとんど意識されていないことがわかった。しかし、忘却されつつある連続性を射程にいれつつ、今後研究を進めていくために、戦前・戦中に描かれた作品のリスト作成や作品分析に取り組んだ。

(3) 海外の類似表現との国際比較

海外で制作され発行されている学習マンガ的なマンガとの国際比較を行うための調査をおこなった。韓国の学習マンガ編集部へのインタビュー調査を実施し、韓国の学習マンガ制作環境の日本との類似点や相違点を整理することができた。長くマンガ文化自体が社会的な承認を得られなかった韓国社会において、学習マンガは児童向け漫画としての役割も担っていることが明らかになった。そのため、学習マンガをいかにストーリーマンガとして描くかを、比較的早いうちから追求してきたといえる。そのため、マンガとしての娯楽性を、いかに教育や学習という目的との折り合いをつけていくかが常に問題とされていた。今回のインタビューでは、制作現場における細かな判別のプロセスを明らかにすることができた。これによって、韓国学習マンガにおける表現の特質が、制作現場におけるさまざまな力学の結果から導き出されていることを示すことができた。

他方、台湾において学習マンガとして歴史資料の活用や研究成果の公開を試みる中央研究院のとりにくみについても、制作者たちにインタビューを実施することができた。台湾の場合、韓国と大きく違うのはマンガ文化に対する社会的なまなざしの在り方だといえる。そのため、学習マンガにおける娯楽性が重視され、様々なマンガ表現が許容されていることが分かった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計6件)

山中千恵「伝記学習マンガシリーズにおける 学習・教育 観」『マンガ研究』24 巻、査読有、2018 年、77~92 頁

山中千恵、「学校図書館と学習マンガ」『人間学研究』16 巻、査読有、2018 年、47~56 頁

山中千恵「学習マンガのエンターテインメント化 韓国の学習マンガ『サバイバル』シリーズを事例として」『仁愛大学紀要』15 号、査読有、2016 年、37~44 頁

伊藤遊、山中千恵「台湾「中央研究院」による学習マンガとしての「Creative Comic Collection (CCC)」シリーズ 知識を伝達するマンガの政治性認識をめぐって」『京都精華大学紀要』第49号、査読無、京都精華大学、2016年、196~208頁

伊藤遊「マンガは 戦後 文化が 学習マンガ、傷つく身体、マンガを描く人々」小勝禮子・編『「戦後70年：もうひとつの1940年代美術」展関連企画シンポジウム「戦争と表現 文学、美術、漫画の交差」報告書+美術に関する論文集』、査読無、栃木県立美術館、2016年、22~28頁

伊藤遊「立石大河亞と横山裕一におけるマンガ表現 記号、コマ、赤塚不二夫」『世界が妙だ！立石大河亞と横山裕一の漫画と絵画』カタログ、査読無、広島市現代美術館、2016年、69~71頁

〔学会発表〕(計4件)

山中千恵、伝記学習マンガ表現の変化、中部人間学会、2018年

山中千恵、学習マンガが描く 人間 と 世界 、ソウル大学日本研究所セミナー、2018年

山中千恵、伝記学習マンガ の人物選択と「有名性」をめぐる、日本マンガ学会、2017年

伊藤遊 歴史系学習マンガ の表現における「リアリティ」をめぐる、日本マンガ学会、2017年

〔図書〕(計4件)

山中千恵 『学習マンガが描く 人間 と 世界 』、J&C、2018年、80頁(韓国語)

山田奨治編、『マンガ・アニメで論文・レポートを書く』ミネルヴァ書房、2017年、288頁、山中千恵・伊藤遊 「伝記学習マンガ」を形作るもの」85～108頁

竹内オサム、西原麻里編著、『マンガ文化 55 のキーワード』ミネルヴァ書房、2016年、298頁、伊藤遊 「学習マンガ 戦前に生まれた 教育 ツール」56～59頁、「マンガミュージアムマンガ文化の普及と保存」184～187頁

『ユリイカ』2016年11月臨時増刊号「総特集・赤塚不二夫」青土社、2016年、285頁、伊藤遊 「マンガ」の外へ 赤塚不二夫の一コマ政治諷刺マンガ、大人の学習マンガ、さわる絵本」270～277頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：伊藤 遊

ローマ字氏名：ITO, Yu

所属研究機関名：京都精華大学

部局名：国際マンガ研究センター

職名：研究員

研究者番号(8桁): 70449552

(2)研究協力者

研究協力者氏名:

ローマ字氏名:

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。